

平成 26 年 2 月 17 日

2 系 稲田

同窓会臨時役員会（メール審議）議事録

1/7 の役員会に関して提案された以下 3 件について、メール審議にて意見（期間：1/8-24）等を伺った。いただいた意見は下記の通り。

(1) 同窓会会計の管理の一元化

現在旧 1～旧 8 系に配分している各系（旧系）同窓会会計の管理を一元化する。

これまで各旧系同窓会でやっている独自活動を制限するのではなく更に活性化してもらうため、各系からやりたい活動に関する事業計画を提出してもらい、予算配分する方針とする。

<意見等>

・用途の怪しさがなくなるであろう、ということで、強く賛成。また、系間での不公平を防止するために、(活性化)活動に対する配分について、役員全体で(メール)審議するステップがあると良い。新 1・2 系に集中する可能性が若干あるように思えるので、他系への配慮をよく考慮しなければならない、かも。

・賛成だが、気になることが一点。旧系独自のお金（例：旧 3・4 系ですと前回の三志会での収入残額）というのが系によってはあるのではないかと思うが（旧系で何かお金を集めたとか、旧系に対する寄付があったとか）、何か情報が出ているか？

もしそういうお金があれば、何らかの形で配分金と分けて、そのお金だけは旧系で管理してもらうということで良いか？それとも、一元化と言っても、旧系の通帳がそのまま残るような運用想定なのか？

・一元化の趣旨の説明がほしい。各系が保有する金額がそれなりの額であろうと予想されるため、一元的に適正管理する必要性はあるかと思う。賛成だが、過去の経緯もあるため、金銭管理の健全化や税務対策等、一元化の必要性を説明してほしい。

・一元化の具体案は？経費のなかから雇用費をねん出し、専任（非常勤）の会計担当者を雇用するなど、現役員の負担とならない方策が必要。

・賛成。なお各系の同窓会活動の独自性を尊重し、年度活動計画と予算申請を各系（旧・新）より提出、役員会で審議し承認し、予算措置のもとで実施していくプロセスを作るべき。入会金は全学同窓会に、終身会費は各系に配分し各系で管理する、というのは慣習だったと思うが、もし覚え書きなどがあるなら、再確認し適切な変更なり、同窓会規約への明文化（第 8 章 20 条に集中管理（年度計画審議⇒支出）、ならびに会計監査のミッションを追加）などが必要。

(2) 同窓会業務の委託

同窓会業務を外部に委託する方向で検討したい（委託先に関しては、新1系役員が調査を進める）。

<意見等>

・賛成だが、単なる個人情報の業者集約とならないよう、管理費用対効果がよい業者など、選定の指針を明示していただいたほうが良い。

※ 旧2系で以前に導入検討をした経緯があるが、委託業者に一旦情報を預けると個人情報取扱を盾に

- ・名簿一覧，もしくは一部の取出し
- ・リストの運用，郵送などへの利用
- ・定期的な住所録のメンテ・クリーンアップ

にその都度（データ1件でいくらの）費用が発生することが分かり断念。系レベルの情報を預けるには費用対効果が悪すぎたが、全体での委託ということになれば、うまく活用すれば費用分の効果は期待できそう。ただし、どこにどのような費用が掛かるかは細かく確認してほしい。

・名簿の統一データベースの構築と一元管理，それに基づく同窓会会員への発送やメーリング業務，同窓会の会計管理，これが主たる委託内容となると理解。Webで同窓会業務受託関連を少し検索したところ、同窓会の幹事代行サービスはちらほらあるが、名簿管理や同窓会業務となるとこれと言ったところがない。名簿データは学内サーバに構築がベスト、セキュリティと安全が担保され信頼に足る外部クラウドサービスはまだないというのが実状。目についたサイトは下記の通り。

●同窓会名簿・会員管理システム，同窓会業務委託（順不同）

<http://www.alumnet.jp>

<http://www.lns.co.jp>

http://www.trendy.co.jp/ja/ls_list.html

http://www.eastgate.co.jp/en/solutions/member_mgt.htm

<http://www.printing-s.jp/support/>

http://www.salat.co.jp/modules/jobs/index.php?cat_id=1

<http://www.w-int.jp/casestudy/detail.php?n=0035>

<http://products.ndis.jp/nicemember/alumni/feature.html>

(3) 留学生（海外）同窓会ネットワークの構築と連携強化

<意見（現状報告を含む）>

・前回役員会での方針合意－海外同窓生ネットワークの構築と連携強化のために、海外同窓会支部（仮名）を設ける。

→会則 11 条の業務に明示的に追加。関下先生を支部長とし、インドネシアセクションから立ち上げていく、というのが今後の流れ。

関下先生は、大学のグローバル工学教育機構のインドネシア部会長であり、その活動の一つとしてインドネシア卒業生名簿の作成更新、同窓会インドネシアセクションの立ち上げを計画されている。一方、ペナン校教育プログラムの一つとして、平成 26 年度事業計画の一つに留学生同窓会活動があり、概算予算として 160 万円が積まれている（海外留学生同窓会をペナン校で実施、そのための日本からの渡航費用、マレーシア国内からの招聘費用などが主）。この実施責任は国際教育センターでリム先生。

これらが全て連携して、ペナン校で TUT 海外同窓会を開催、マレーシア・インドネシアを主体に TUT の留学生 OB の集い、全学同窓会も協力して一体で実施、同窓会長はもちろん主催者として出席、また留学生だけではなく ASEAN 地域に駐在等している日本人卒業生も出席と言う形があるべき姿ではないか。

上記は 2014 年度の同窓会メインイベントとして、今度の役員会で協議して立案し予算化すべき。